



第3学年1組 算数科「ものの重さ」

学習活動・予想される児童の反応	本時見られた深く学び続ける子どもの姿								
<p>1 ものの重さを予想することで、本時のめあてをつかむ。 ・大きなものの重さだから、1kgを超えそうだな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">重さを予そうして、ものの重さを正しくはかろう。</div> <p>2 自分の量りたいもののおよその重さを予想して、重さを量り、交流する。</p> <p>○ 既習内容の振り返りをし、見通しを立てる。 【見方】 何kgまで量ることができるか 【考え方】 100g、500g、1kg、2kgをもとにして、重さを予想する</p>	<p>○ 小さなルーアと発泡スチロールで出来たコンクリートブロックのレプリカの重さを手に持って比べ、重い方を予測することで、重さは大きさや感覚だけでは正確に分からないことを実感することができ、本時のめあてをもつことができた。</p>								
<p>○ 予想した重さをもとに、計器を選択して、重さを量る。</p> <p style="text-align: center;"><b>【方法選択】</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; text-align: center; vertical-align: middle;">根拠</td> <td style="width: 33%; text-align: center; vertical-align: middle;">筆箱の重さは、1kgより軽そうだな。</td> <td style="width: 33%; text-align: center; vertical-align: middle;">タブレットの重さは1kgと2kgの間ぐらいかな。</td> <td style="width: 33%; text-align: center; vertical-align: middle;">中身の入ったランドセルの重さは2kgより重そうだな。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">方法</td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">1kgばかりを使って量る。</td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">2kgばかりを使って量る。</td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">4kgばかりを使って量る。</td> </tr> </table>	根拠	筆箱の重さは、1kgより軽そうだな。	タブレットの重さは1kgと2kgの間ぐらいかな。	中身の入ったランドセルの重さは2kgより重そうだな。	方法	1kgばかりを使って量る。	2kgばかりを使って量る。	4kgばかりを使って量る。	<p>○ 子ども達は、自分が持ってきたものを意欲的に量っていた。ものの重さを100g、500g、1kg、2kgのおもりをもとに予想する姿が見られた。(資料1)</p> <div style="text-align: right;">  <p>(資料1) もととなる重りを使って重さを予想する児童の姿</p> </div>
根拠	筆箱の重さは、1kgより軽そうだな。	タブレットの重さは1kgと2kgの間ぐらいかな。	中身の入ったランドセルの重さは2kgより重そうだな。						
方法	1kgばかりを使って量る。	2kgばかりを使って量る。	4kgばかりを使って量る。						
<p><b>【個別と協働の一体的充実】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人で知りたいものを選び、重さを量る。</li> <li>2kgばかりで量ってみたが、2kgのメモリを超えることが分かったので、どうすればよいか友達に聞いてみる。</li> <li>同じものを量った友達と重さを伝え合って、確かめる。</li> </ul>	<p>○ 個人で量る、秤量を超えたのでどうするか友達と考える個人で量る、正しく量れているのか確認するなど、個別と協働が行き来するような場の設定をした。(資料2) 計器を選択し、正しく量るためにはどうすれば良いのか友達と話し合う姿も見られた。</p>								
<p>○ 自分の量ったものの重さを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>筆箱は1kgより軽いと予想したので、1kgばかりで測ると、450gでした。</li> <li>タブレットは2kgより重いと予想したので、4kgばかりで量ったけれど、2kgより軽かったので2kgばかりで量ると、1kg345gだと分かりました。</li> </ul>	<div style="text-align: center;">  <p>(資料2) つなぎタイムの様子</p> </div>								
<p>3 1kg500gになる、ものの組み合わせを班で考える。 ・ペットボトルと、ボールで1kg500gになりそうだな。</p> <p>4 本時のまとめをし、学習を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">重さの予想をしてちょうどよいはかりで重さをはかると、正しく重さをはかることができる。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>ちょうどよいはかりを使って重さをはかると、正しく重さをはかることができると分かった。1kgをもとに重さを予想すると、ちょうどよいはかりを選ぶことができためもりが見やすかったからです。</li> </ul>	<p>○ 計器がさしている目盛りの写真を撮ることで、測ったものはかりの表示を共有し正確に量ることができているのか確認することができた。(ICT)</p> <p>○ 今日の学習でを積み上げていくことで、本時の振り返りの仕方を理解して、書くことができるようになった。</p>								

- 自分の身の回りの物の重さを量る活動を仕組むことで、日常生活の中でも給食を運びながら重さの見当をつける姿も見られた。
- 「つなぎタイム」を設けたことで、個人で量る児童や、おもりを2個もって測定物の重さを予測する思考をしたり、はかりを選択するときに友達の助言をもとに考えたりする姿が見られた。
- おもりをもとに重さを予想する活動をすることで、根拠をもって計器を選択するという方法選択をすることができた。
- △ 計器を選択する時の視点を授業の後半に入れたが、そのタイミングについてはより考える必要があった。